

# 人生ハンド仏句

第99号

H. 22. 6. 1

(毎月1日発行)

## 恩

住職 谷川寛俊

日蓮大聖人様の有名なお言葉の中に、「孝と申すは高なり、天高けれども孝よりは高からず、又孝とは厚なり、地厚けれども孝よりは厚からず」

このお言葉は身延山、山頂の奥の院思親閣に参りますと、はるか故郷房州小湊(千葉県)をながめ、東の方から吹いてくる風があれば、きっと父母の墓をなぞって来た風であらうとまで思いを寄せ、御両親を偲ばれた霊場であります。身延山へお参りされた方はきっと思い出されたことと存じますが、いつもこの「奥の院思親閣」に参拝する度に大聖人様の深い親孝行に対する思いに熱いものが込み上げてまいります。

「父母恩重経」という經典の中には、父母の愛情を次の十に数えています。

- ①みごもれば、お腹の子を常に思い、これを守るよう努めている。
- ②出産の苦は生死の境をいく思いではあるが、ひたすらに子を思つてこれに耐える。
- ③生まれた子を見れば、万苦を忘れて、喜びにあふれる。
- ④乳を与え育てることを真つ先として、常に慈しみを忘れない。
- ⑤子が誤つて布団をぬらせば、母は所をかえ、自分が濡れた上に臥し、子を乾いた所へ移しおく。
- ⑥おむつや、不浄な物の洗濯をいとわない。
- ⑦子に美味しいところを与え、母はまずいとこを食べている。
- ⑧親は子のためには、どのような苦労をもちとわない。

⑨子と住む場所が離れば離れるほどに、親の子を思う思いは強く深くなる。

⑩常に子の平安と幸いを祈り願い続けている。

これら父母恩重経のお言葉を見るまでもなく、親心はいつの世にも変わらない貴重なものであることがわかります。古い經典のお言葉ですが、今日でも変わることなく行われていることでもあります。

私達は、大きな親心に育てられて大きく成長したのです。しかしながら毎日のように新聞やテレビのニュースにあるような虐待や、更には親が子を子が親を簡単に殺してしまうという、とても考えや想像も付かない現実が起こっているのです。今こそ若い人達にこの「父母恩重経」を見聞してもらいたいと切に願わずにはおれません。

編集・発行

玉蓮山 真成 寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX (0765)22-2268

メールアドレス

kokorochanthk@ybb.ne.jp

ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/>

[sinjyoujitoyama108/](http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/)

人生に花を咲かせて花をおごらず。  
根として支えてくれた人に感謝する。